

保存版

鋳物師屋区防災計画

2022 年 6 月

鋳物師屋区

鋳物師屋区の皆さまへ

『災害は突然起こります。』

鋳物師屋地区の皆さんが共に災害を乗り越えるためには、日頃の備えが欠かせません。

あなたとあなたの大切な人を守るために、できることを考えてみましょう。

災害時に多くの命を救うには、地域の助け合いが大きな力を発揮します。

この防災計画は、鋳物師屋区に想定される災害を見直し、住民と地域がどのような対策をとればよいかを整理したものです。

災害に遭うということ

これまでの生活から、経験したことのない不便で不安な生活が始まります。

日頃から災害が『起こるかもしれない』という意識が大切です。

「自助」「共助」「公助」

自助：自分の身は自分で守る。

共助：近所の助け合い、地区の助け合い。

公助：行政などによる支援。

1 計画対象地区の範囲

(1) 計画対象地区

「鋳物師屋区防災計画」は次の地区を対象として定めます。(図-1)

鋳物師屋区	全 域	世帯数	500 世帯
-------	-----	-----	--------

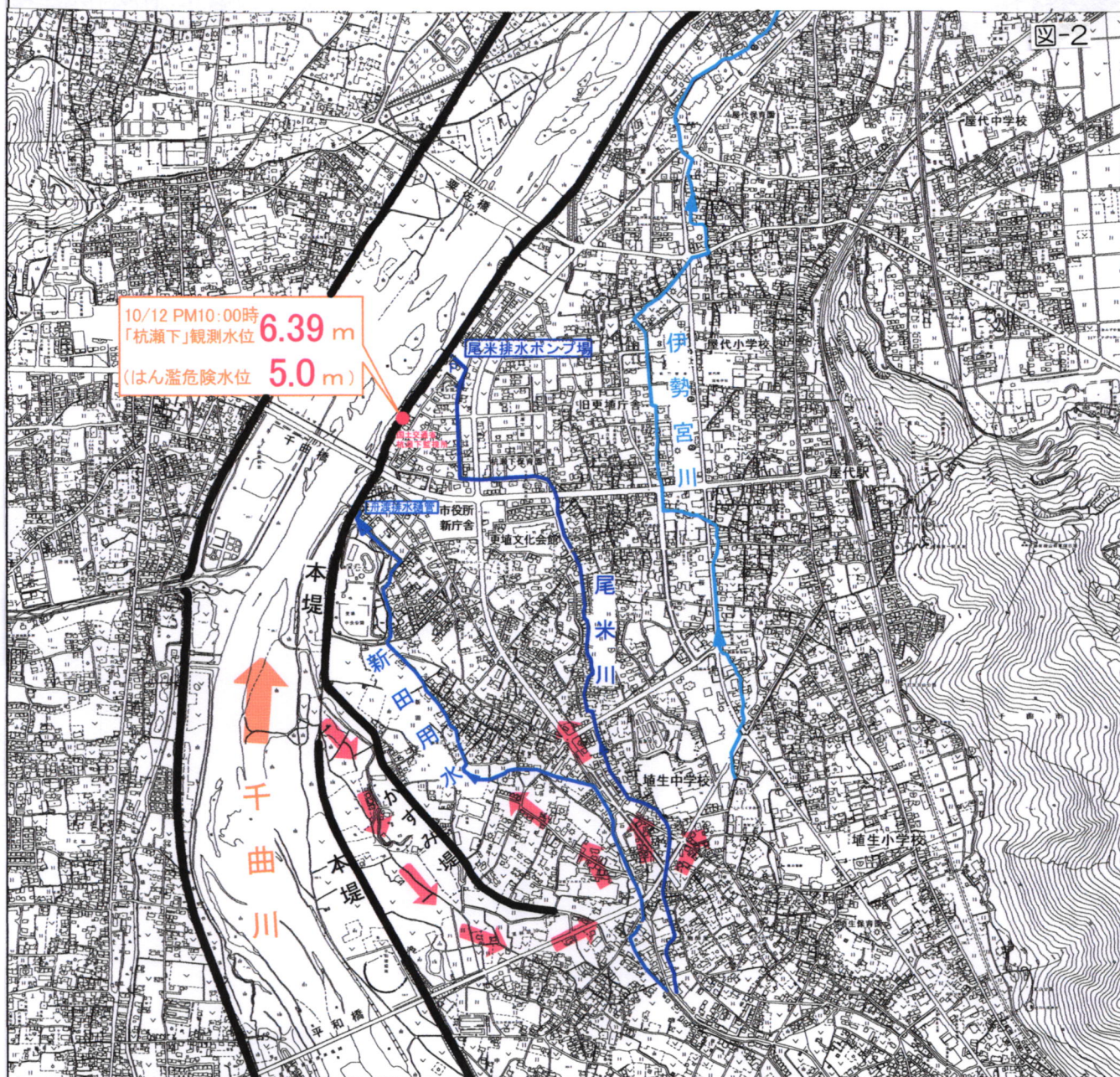


(2) 地区の災害

2019年10月の台風19号では、特に県下の千曲川流域で大きな災害となったが、当地域では新田地区にある「かすみ堤」から水が溢れ、更に尾米川・新田用水に流れ込み、中、鑄物師屋、新田、杭瀬下及び屋代地区に大量の濁流が押し寄せた。鑄物師屋区では、けが人はなかったものの、床下浸水住宅63戸、床上浸水住宅14戸、事業所の水害7件及び車の水没多数などの浸水被害となった。(図-2)

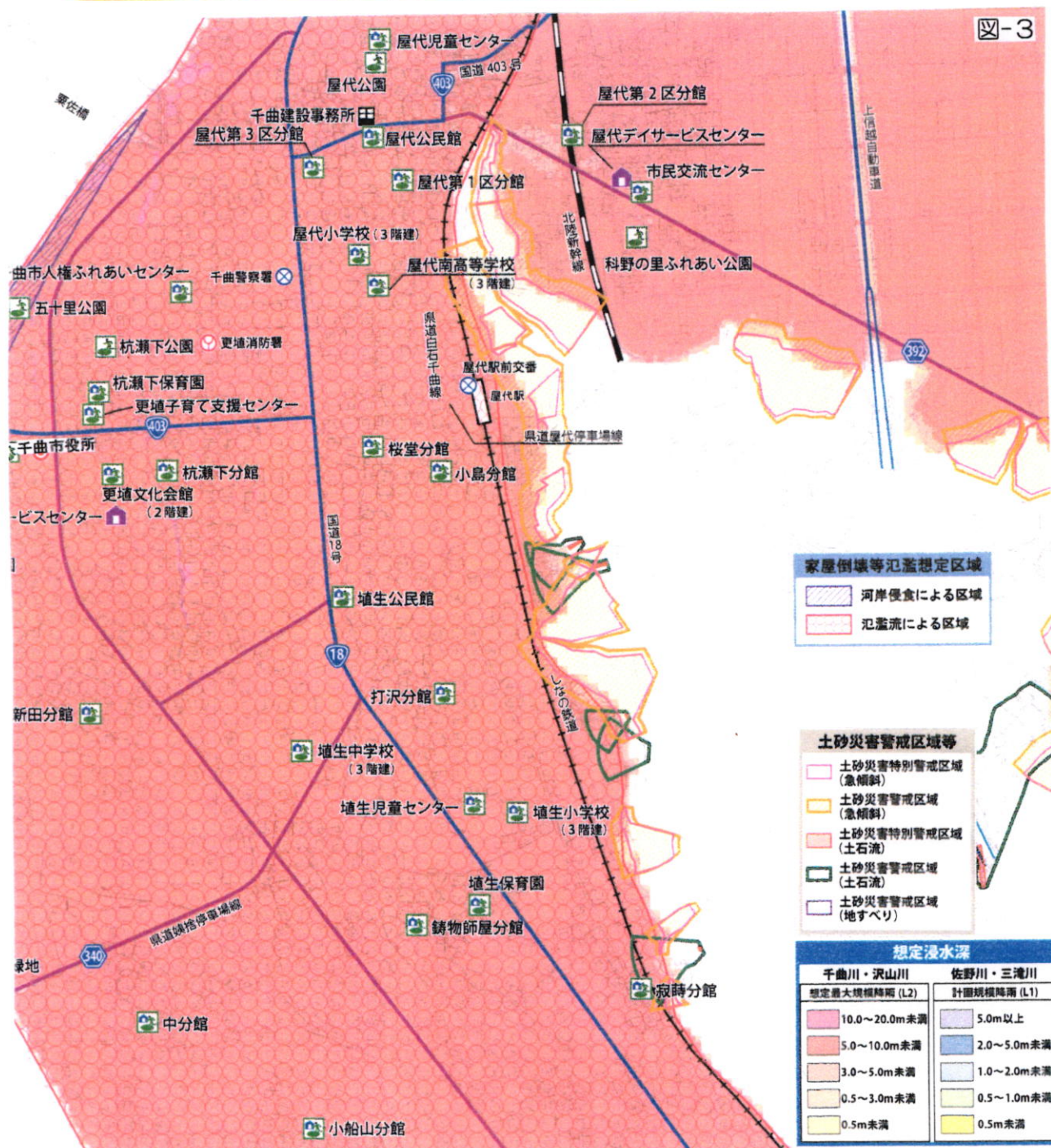
台風19号豪雨災害における
状況図

千曲川からの流入水



(3) 今後想定される災害

- ① 千曲市が2021年3月に発行した防災ガイドブックの洪水・土砂災害マップ(図-3)によれば、千曲川の堤防が決壊した場合(1000年に一回程度の最大規模の降雨)、鋳物師屋区には5m~10mの浸水が発生する可能性があります。地球温暖化の影響か近年は世界の各地で大規模な豪雨災害等が多発しており、災害への意識強化と事前準備が大切です。
- ② 全国各地で多発している地震について、2015年3月に公表された地震被害想定調査結果によれば千曲市に最も影響を及ぼす地震として「糸魚川-静岡構造線断層帯」の地震で最大震度7と想定されています。



2 基本的な考え方

(1) 基本方針

「東日本大震災」や「熊本地震」の際、被災者の救出に当たって活躍したのは地域の住民等であり、災害時には自分の身は自分で守る「自助」はもちろんのこと、地域における自主防災組織、ボランティア、企業などが、共に支え助け合う「共助」が重要です。

鑄物師屋区では、『自らのまちは自らが守る』という心構えで、地区のみんなで助け合いながら、災害に強いまちづくりを進めます。

この取組を計画的に推進するため、地区住民を主体とした防災組織を構築し、この行動の規範として「鑄物師屋区防災計画」を定め、平常時から備えの充実を図るとともに、災害時における「自助」「共助」を着実に実行するため、この計画に基づく施策・事業などに取組み、地区の防災力及び地域のコミュニティを高めていきます。

(2) 活動目標

① 平時の対応

『いざというとき』に地区の力が発揮できるよう、地区のみんなで協力して防災・減災活動に取り組めます。

ア 防災・減災知識の普及・啓発

地区住民一人ひとりが防災に関心を持ち、日頃から準備することが大切です。地区住民への防災・減災知識の普及や啓発活動を行います。

イ 地区内の安全点検

防災・減災の基本は、自分たちの住む地域の特性を知ることです。地区の危険な場所や防災上問題がある場所などを確認し、改善のための働きかけや危険回避・軽減などを行います。

ウ 防災訓練

地区住民に積極的な参加を呼びかけ避難訓練等の訓練を実施します。

エ タイムライン作成

『自らの命は自らが守る』を基本に各自の避難行動を示す「マイタイムライン」の作成に取り組めます。

② 災害時の対応

災害時は、様々な事態が発生しますが、千曲市災害対策本部及び関係機関と連携・協力しながら、地区住民で力を合わせて活動します。

ア 情報収集・伝達

千曲市災害対策本部及び関係機関（千曲坂城消防本部、千曲警察署、長野気象台等）から正しい情報を収集し、地区住民に伝達します。また、地区内の被災状況や災害発生情報などを取りまとめ千曲市災害対策本部への報告を行います。

イ 救出・救助活動

負傷者や家屋の下敷きになった人の救出・救助活動を地区住民で協力して行います。また、負傷者の応急手当等を行い救護所などへ搬送します。

ウ 初期消火活動

火災の延焼を防ぐため、消火栓・消火器による初期消火活動を行います。

エ 避難誘導

地区住民を安全な避難所・避難場所へ誘導します。また、避難時には隣近所への声かけや安否確認を行います。

オ 警備・保安活動

危険個所の警備や避難者宅の空き巣などの地区内防犯巡回を行います。

③ 避難行動要支援者等への支援

高齢者、障がい者、子ども（要支援者）等、人の助けを必要とする人を災害から守るため、地域住民みんなが協力して避難誘導、避難行動などの支援を行います。

ア 避難時の確実な支援

隣近所の助け合いにより、複数の支援者が一人の要支援者を支援できる体制づくりに努めます。

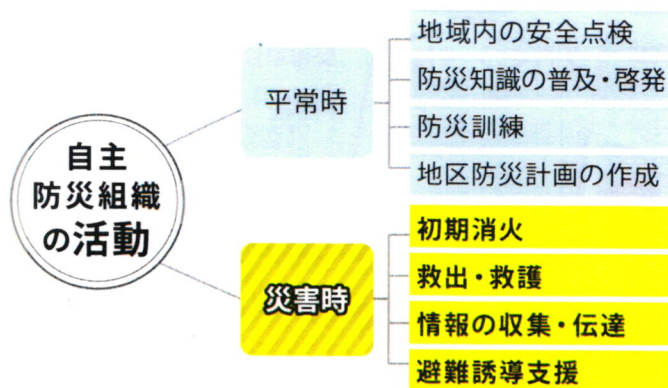
イ 環境点検

避難経路等に障害物や危険個所がないかなどを点検し、自主避難ができる環境整備に努めます。

ウ コミュニケーション

避難情報などが確実に伝わるよう、日頃から積極的に要支援者とのコミュニケーションを図ります。

災害に強いコミュニティづくり



災害時に配慮が必要な人への支援

災害時には、皆さんの支援を必要とする人がいます。



高齢者や乳幼児

- ・支援者をあらかじめ決めておく
- ・複数で対応する



目の不自由な人

- ・声をかけ情報を伝える
- ・誘導する場合は腕を貸しゆっくりと歩く



車いすの人

- ・階段では2人以上必要
- ・段差、坂道がある場所は気をつける



病氣やけがの人

- ・優しく声をかけ相手を安心させる
- ・程度に応じて援助する



耳の不自由な人

- ・口を大きく開けはっきり話す
- ・手話、身振り、筆談などで情報を伝える



外国の人 外国語版 P49.50

- ・やさしい日本語で支援の意思を伝える
- ・身振り、手振りなどでコミュニケーションをとる

3 地区の特性

(1) 災害のリスク

①自然（地形）特性

- ① 千曲市が発行した都市計画基本図（図-4）で確認すると、鋳物師屋区は東山に近い国道のいもじや信号付近の標高が最も高く、千曲川に近い区北西部の中でも埴生中学校グランド西側付近の標高が最も低い、この標高差は3.8mある。（鋳物師屋区の標高 361.1m～364.9m）
- ② 2019 年 10 月の台風 19 号により、千曲川が氾濫危険水位を超えたことで隣接する新田地区にある「かすみ堤」が溢れ、大きな水害となった。

②社会特性

- ① 鋳物師屋区は、近くに小学校・中学校・病院があり、商業施設も点在して、生活環境が良いことから、年々世帯数は増加傾向にある。
- ② 逆に区の中心部は空家が散見され、高齢者世帯も増加している。
- ③ 千曲線の開通により、沿線には商業施設や医療機関も増加しており、更なる発展が期待されている。



4 防災活動の内容

(1) 活動目標

『自らのまちは自らが守る』（共助）を基本に、迅速な安否活動体制を構築し、防災訓練や防災研修会の開催等により、自助・共助の確立を図り【逃げ遅れゼロ】を目指す。

(2) 避難行動、避難場所

『自らの命は自らが守る』（自助）を基本に、災害の恐れがある場合は、市からの避難指示を待つことなく自主避難することを基本とします。

その為、迅速で安全な避難が行えるよう「マイタイムライン」を作成します。

① 警戒レベルに応じた避難行動

警戒レベル3	高齢者等は避難開始、要支援者の避難を促します。
警戒レベル4	危険な場所から全員避難します。
警戒レベル5	少しでも安全な場所へ移動し、身の安全確保を図ります。

② 鋳物師屋区での避難判断

【洪水による避難】

警戒レベル3	千曲川	杭瀬下水位観測所で4.00mを超えた場合
警戒レベル4	千曲川	杭瀬下水位観測所で5.00mを超えた場合
警戒レベル5	千曲川	越水の恐れがある場合

【土砂災害による避難】

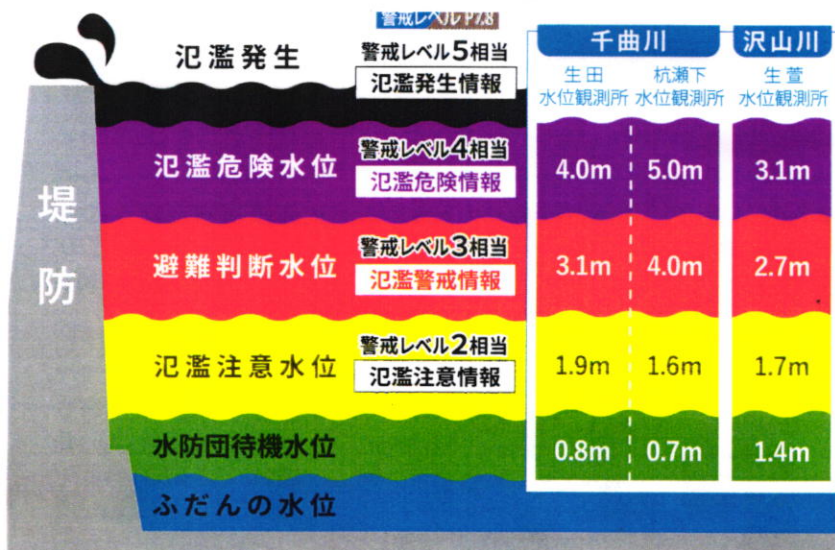
警戒レベル3	大雨警報（土砂災害）が発表され、引続き降雨が予想される場合
警戒レベル4	土砂災害警戒情報が発令された場合、前兆現象が確認された場合
警戒レベル5	土砂災害が発生した場合

【地震の場合】

安全確保	地震が発生し、家屋等の壁のひび割れや瓦の落下が確認された場合
	火災や停電が発生した場合

③ 避難場所・避難所

避難所・避難場所	住 所	電話番号
埴生小学校	千曲市鋳物師屋 72	272-0158
埴生中学校	千曲市桜堂 100	272-0015
鋳物師屋公民館	千曲市鋳物師屋 299-2	274-2307



警戒レベル3 災害のおそれあり	警戒レベル4 災害のおそれ高い	警戒レベル5 災害発生又は切迫
高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保

危険な場所から 高齢者等は避難

- ▶ 高齢者等以外の方も危険を感じたら自主的に避難



危険な場所から 全員避難

- ▶ 安全な避難先へ移動 (避難所、親戚・知人宅など)



命の危険 直ちに安全確保!

- ▶ 少しでも浸水しない高い場所へ移動



そなえよう わが家の防災セット

非常持出品 避難時に持ち出すもので、最低限必要なもの。避難袋 (リュック) に入れておきましょう。



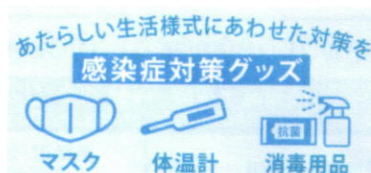
水・食料	飲料水 (1リットル程/1人) 非常食 (調理不要のもの3食分)	貴重品	現金 (紙幣・硬貨) / 印鑑 預金通帳 / 身分証コピー
-------------	-------------------------------------	------------	----------------------------------

防災用品	携帯電話・モバイルバッテリー / 懐中電灯 / 携帯ラジオ / 予備の電池 ヘルメット・防災ずきん / ホイッスル / 軍手 / マッチ・ライター ロープ / 布ガムテープ / レジャーシート / 毛布・寝袋 / 携帯用トイレ
-------------	---



日用品	タオル / ティッシュ / ビニール袋 / 歯ブラシ 上着・下着 / レインコート / 筆記用具 / 時計
------------	--

医薬・衛生品	持病薬 / 解熱薬・かぜ薬・胃腸薬 / おくすり手帳 ばんそうこう・包帯・傷薬 / 毛抜き・綿棒・爪切り
---------------	---



それぞれの
状態に合わ
せた備えを



乳児 粉ミルク・液体ミルク・離乳食
紙おむつ・おしりふき / 着替え
母子手帳



女性 生理用品
基礎化粧品
防犯ブザー

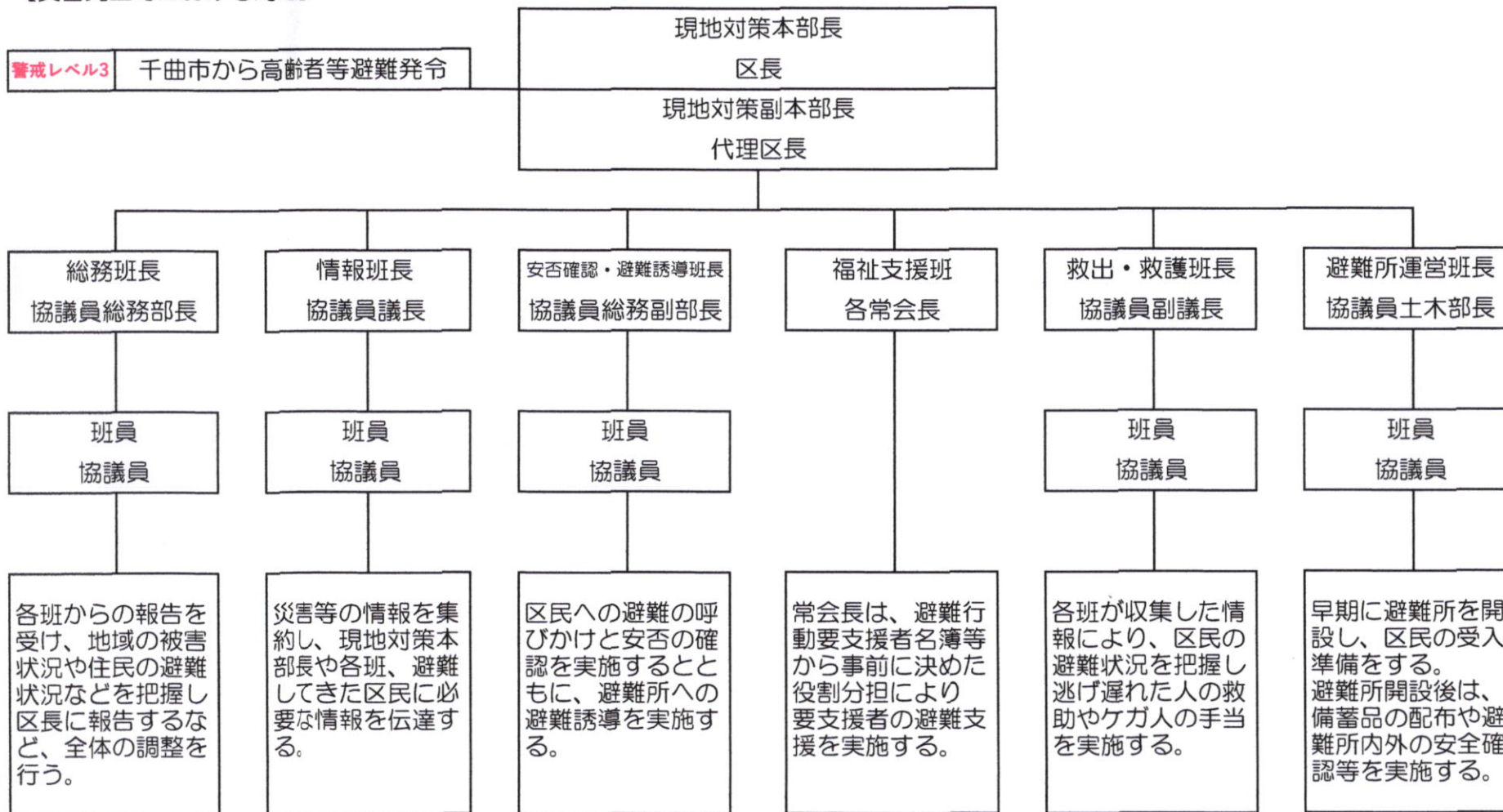


高齢者 介護用品
携帯用杖
口腔ケア用品

(3) 防災活動の体制

鋳物師屋区防災組織図

【災害発生時における対応】



※ 協議員(自衛消防団)を主体とする組織体制

(4) 平常時における防災活動

担当者	項 目	活動内容
区長・代理区長	統 括	協議員会（自衛消防団）の招集、担当の確認
協議員総務部長	総 務	全体調整、年間活動計画等の作成、地区防災計画の見直し
協議員議長	情 報	防災知識の普及啓発活動、情報収集や伝達方法の確認
協議員総務副部長	安否・避難	指定避難所までの避難経路、危険個所等の確認
各常会長	福祉支援	要支援者の把握、避難に関わる支援体制
協議員副議長	救出・救護	応急手当講習の受講、救出方法、搬送方法の検討
協議員土木部長	避難所運営	避難所の点検、備蓄品の管理、避難所の開設訓練

(5) 災害時における防災活動

担当者	項 目	活動内容
区長・代理区長	統 括	現地対策本部の設置、各班長の招集・活動指示 市との連絡調整、指定避難所への二次避難の判断等
協議員総務部長	総 務	災害状況の把握、全体の調整
協議員議長	情 報	災害情報の収集と伝達
協議員総務副部長	安 否 避難誘導	地域住民への避難の呼びかけと安否確認 避難所への避難誘導
各常会長	福祉支援	要支援者等の避難支援、避難所での生活支援
協議員副議長	救出・救護	逃げ遅れた人の救出、救護 避難者の健康管理
協議員土木部長	避難所運営	避難所の開設・運営、内外の巡回 備蓄品の配布

5 マイタイムラインの作成

【逃げ遅れゼロ】をテーマに《いつ、どこへ、どのように》行動するか、各自で「マイタイムライン」を作成し、日頃から備えましょう。

災害リスク	想定される災害	千曲川の堤防決壊による浸水
知って 備える。	避難場所は どこか！	★埴生小学校(3階建) ・比較的標高が高く、車の水没守るならこちら。 ★鋳物師屋公民館(2階建) ・発生初期段階の臨時避難所。 ★埴生中学校(3階建) ・比較的標高は低い、3階建の建物で安全。
	いつ行動するか！	避難開始のタイミング 下記の警戒レベルにより行動する。
	情報の収集方法！	テレビ(ケーブルテレビ)・ラジオ・SNS
状 況	気象・避難情報	あなたの行動
大雨発生の 可能性	レベル 1 早期注意情報	○テレビ・ラジオ・SNSで天気予報をチェック ○家族の予定や居場所を確認 ○非常用持出品を用意、確認 ○家の周りの安全確認
重大災害の 兆候	レベル 2 大雨・洪水注意報	○各種情報により雨量や河川の水位を確認 ○避難場所や交通手段を再確認 ○動きやすい服装を準備 ○携帯電話の充電を確認
重大災害の おそれ	レベル 3 高齢者等避難	○離れている家族や知人に避難することを連絡 ○ガス、水道、電気の元スイッチ切断、戸締り ○避難場所に避難開始(高齢者等) ○避難のため支援が必要な人、区・常会長に連絡
重大災害の 発生確率大	レベル 4 避難指示	○安全な避難先へ(避難所、親戚、知人宅) ○全員避難、避難完了 ○避難が困難な場合は身を守る行動をとる。 ○最新情報を確認する。
災害発生	レベル 5 緊急安全確保	○既に災害が発生している状況です。 ○命を守るために最善の行動をとりましょう。

※ 「鋳物師屋区防災計画」では、防災資材一覧表、緊急連絡体制一覧表(連絡網)、復旧復興期の活動項目についての記載は省略しました。

※ 災害発生時には、各役員、各種関係団体との連携が重要です。
協力体制を確立して、区民の【安全・安心】を守りましょう。

備蓄計画

令和7年8月22日現在

No.	物品名	目標数	整備予定年度			備考
			令和7年度	令和8年度	令和9年度	
1	飲料水(500ml)	72本	3箱	2箱	2箱	消費期限3年 (1箱24本)
2	備蓄食料 (アルファ米、レトルト食)	3箱	1箱	1箱	1箱	消費期限5年 (1箱50食)
3	毛布	10枚	10枚			
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

※ 備蓄品は計画的にローリングストックを行うものとする。

《参考資料》（食料品等の備蓄品の目安）

【長野県及び千曲市の備蓄目標】

千曲市内において最も被害が大きいとされている糸魚川ー静岡構造線断層帯の地震による最大想定避難所避難者数では、市民(全人口)の約13.5%となっており、食料品等の備蓄は3日分として、長野県1/3、千曲市1/3、市民1/3となっている。

【区・自治会の備蓄目標】

区・自治会の世帯数の2倍（一世帯2人した場合）の10%を目標に食料品等の備蓄を整備する。（1日分を備蓄）

例） 区・自治会の世帯数が400世帯の場合

【基準：80人(400世帯×2人)×10%=80人】

①飲料水 80人×3ℓ(1日/1人)=240ℓ(500mlの場合480本)

②食料 80人×3食(1日/1人)=240食